

8-4-11 鉄道専門委員会

1. 主な活動の記録

- (1) 委員会の開催
専門委員会の開催回数：9回
- (2) 鉄道専門委員会セミナーの開催
若手および中堅技術者を対象とした、鉄道に関するセミナーを年2回計画。
 - ・7月1日（金） 協会会議室
「既設土構造物の耐震診断・補強技術」
講師 中島 進氏
(公財) 鉄道総合技術研究所
参加者 67名
 - ・12月1日（木） 協会会議室
「若手技術者のための土質・基礎講座」
講師 青木 一二三氏
(株) レールウェイエンジニアリング
参加者 69名
- (3) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。
昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの112例に11例を追加し123例とした。
- (4) RCCM教材の改訂
RCCM 自主学习システム教材の全体の1/4程度の改訂でナレーションも変更する(レベル2)を実施した。演習問題も改訂した。
- (5) 「報酬積算の手引き」(改訂第10版)に関する普及活動
「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社) 建設コンサルタンツ協会 第10版) を配布した。その後、増刷しさらなる普及に努めている。今後もその普及につとめる。
特に地方自治体(県、市町村)を中心に説明を実施する。
- (6) 「報酬積算の手引き」改訂準備
「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社) 建設コンサルタンツ協会 第10版) は平成23年12月に発刊し、既に5年以上が経過した。この間に各種の鉄道設計基準

(鉄道構造物等設計標準・同解説) が改訂された。このような状況を反映することを目的に、「報酬積算の手引き」(改訂第11版)の改訂作業に着手した。発刊時期については、平成29年度初頭の予定である。

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、継続的な作業として年2回の「鉄道セミナー」開催、エラー事例の収集と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの小改訂(レベル1)の実施、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(第10版)の普及を実施して行く。また、改訂第11版の発刊に向けた準備作業を進めてゆく。

さらに、維持管理WGに参画しているので、維持管理作業について協力してゆく。

また、今年度実施できなかった鉄道・運輸機構との意見交換会を、今年度は実施したいと考えている。鉄道に関する建設コンサルタント業務における実施上の課題整理と分析を深化するとともに、「設計の品質確保に係わる会議(機構業務でのミス事例など)」を検討する。

さらにできれば、若手技術者のための鉄道技術に関する小セミナーや現場見学を検討する。

その他、鉄道総研、鉄道・運輸機構等への窓口として、技術標準の改定に伴う資料の収集と展開などの役目を果してゆく。

(鉄道専門委員会委員長 吉村 剛)